



花園大学

教員 おすすめ図書

2020 APRIL v.9.0 新入生歓迎号

花園大学の先生が選んだ、皆さんにぜひ読んで欲しい本のリストです。コメントを付けて、図書館1階の「おすすめ図書コーナー」に配置してあります。貸出することもできます。

花園大学情報センター（図書館）



Factfulness : 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣

ハンス・ロスリング[ほか]著/上杉周作、関美和訳

日経BP社

2019.1

第21代 学長

丹治光浩

<請求記号>

304/R 72

昨年の入学式でも紹介した2018年のベストセラーです。この本の著者が言いたいことは、私たちがいかに思い込みや偏見の世界に生きているかということですが、私は、この著者の答え自体をも疑うべきだと思っています。みなさんは、是非自分の目で見て、自分で考えてから判断してください。これこそが、花園大学の建学の精神が求める人格の陶冶の一側面です。



実存と虚存：二重世界内存在

上田閑照著

筑摩書房

1999.3

文学部 仏教学科

松本直樹

<請求記号>

ちくま学芸文庫
/ウ-2-2

著者(1926-2019)は本学でも教鞭を執られた、国際的にも著名な宗教哲学者。本書は副題にもあるように、「二重世界内存在」という著者独自の観点から人間のあり方を探究したもの。私たちはつねに世界のうちに存在するが(実存)、その世界そのものは(著者の言葉によれば)「限りない開け」、あるいは「虚空」のうちにある(虚存)。この二重の「うちにある」(著者自身の言い方では「おいてある」)あり方が「二重世界内存在」である。このような考えにもとづいて、著者はハイデガー、ボルノウ、エリアーデ、西田幾多郎、さらには禅の十牛図に至るまで多様な思想家や事象をとりあげながら、究極的には宗教へと通じる人間のあり方を精密に解き明かしていく。宗教学・宗教哲学に関心がある人には是非とも読んでいただきたい本。



源平合戦の虚像を剥ぐ：治承・寿永内乱史研究

川合康 [著]

講談社

2010.4

文学部 日本史学科

生駒孝臣

<請求記号>

講談社学術文庫/1988

「源平合戦」として知られる内乱の実像と、その帰結である鎌倉幕府の成立について、『平家物語』に描かれたような「強い源氏」と「弱い平氏」の戦いといった従来の見方を克服し、当時の武士・「戦争」の実態、政治・社会状況等から見直した日本中世史の名著。本書は、われわれが常識として理解してきた「源平合戦」や鎌倉幕府成立に関わる問題を、様々な角度から再検証しており、読み進めるうちに、通説が次々と塗り替えられていくのを実感でき、歴史研究の方法も興味を持って学ぶことができる。



赤いリュックサック (巴里夫のマンガ復刻シリーズ)

巴里夫著

巴里夫のマンガ伝承保存会 2018.9

文学部 日本史学科

菅修一

<請求記号>

Q726.1/To 61

巴里夫は1960年代～1970年代、少女雑誌『りぼん』等で活躍した漫画家。おすすめ図書コーナーに配架されている『赤狩り』(ビッグコミックス 小学館)(*1)等秀作を発表している山本おさむの師にあたる。『赤いリュックサック』は反戦マンガの秀作と聞き、復刻されたのを機会に読んだ。太平洋戦争末期ソ連参戦とともに満洲在住の多くの日本人が内地日本を目差す過酷な逃避行を迫られる。悲しい物語である。もう一つ、「石の戦場」も収録している。著者が旧制中津中学校在学中に作業に動員された海軍航空基地での作業の日々を描いている。航空基地での作業が当たり前の日常だった“異常”さを描きたかった、と著者はいう。否応なく戦争に巻き込まれる人々を実感する。

(*1) <Q778.253/Y 31/1～>

『赤狩り：THE RED RAT IN HOLLYWOOD 1～』(小学館、2017.12-)



官邸官僚：安倍一強を支えた側近政治の罪

森功著

文藝春秋

2019.5

文学部 日本文学科

曾根誠一

<請求記号>

312.1/Mo 45

「モリカケサクラ」と首相をめぐる問題が続く中で、「桜を見る会」をめぐる国会での議論がかまびすしいが、現在の政権の実態を知るのに、絶好の書。□政権に対する賛否は、個々人で異なろうが、現在の諸問題が生ずる背景は、知っておいた方がよいと思うので、推薦する次第。□



コンビニ人間

村田沙耶香著

文藝春秋

2018.9

文学部 日本文学科

高橋啓太

<請求記号>

文春文庫/む-16-1

主人公の古倉恵子は、小さい頃から「普通」ではありません。公園で小鳥の死骸を拾って「これ、食べよう」と言ったり、同級生の男子のけんかを止めるためにスコップで頭を殴ったり……。恋愛も結婚も就職もせず大人になった恵子が「世界の部品」になれると実感できるのは、コンビニのパートとしてマニュアル通りに働いている時だけです。「普通」ではない恵子の視点から物語が語られることで、社会の見え方が変わってきます。海外でもベストセラーとなった作品です。



ペリカンの冒険 改訂

レーナ・クルーン著/篠原敏武訳/秋山幸代画

新樹社

1996.7

文学部 日本文学科

秦美香子

<請求記号>

993/Kr 6

ある日、エミルは食堂でペリカンを見かける。それは近所に越してきたヒューリュライネンさんだった。お母さんは、少し見た目が変わっていても、服を着ているから彼は人間だというのだ。エミルは勇気を出して、ヒューリュライネンさんに話しかけ、彼がやはりペリカンであることを知る。人間のせいで生活環境が脅かされてしまった彼は、動物として安らかに暮らせないのなら、いつそ人間になろうと考えたのだ。エミルは彼に文字を教えることになる。□ペリカンが人として生きるという設定のエキセントリックさが、想像力をかきたてます。そして人間社会や文明の価値について考えさせられます。ぜひ読んでみてください。□



「いつも忙しい」がなくなる心の習慣

水島広子著

すばる舎

2013.9

社会福祉学部 社会福祉学科 深川光耀

<請求記号>

146.8/Mi 96

講義、バイト等に追われ、「あれもやらなくちゃ、これもやらなくちゃ」と頭の中がいっぱいの方にお薦めです。周りには「忙しいのに、なぜか余裕がある人」もいれば、「忙しくないのに、いつもバタバタ焦っている人」もいます。それは、本人が「物理的にどれだけ忙しいか」と、「主観的にどれだけ忙しいと感じるか」が、必ずしも一致しないために起こるそうです。このズレが大きく、「忙しい」感が強い人のことを本書では「忙しい病」と呼び、その対策としての心の持ち方が紹介されています。「忙しい病」かなと思ったら、手に取ってみてください。



フクシノヒト：こちら福祉課保護係 [1]

役所てつや原案/先崎綜一著

文芸社

2017.3

社会福祉学部 社会福祉学科 福富昌城

<請求記号>

文芸社文庫
NEO/せ-1-1

フツの大学を卒業し、安定しているからと役所に就職した青年が主人公の「社会派コミカル青春小説」。彼が配属されたのは福祉課保護係。最初の仕事はいわゆるごみ屋敷状態のアパートに住む人を病院に連れて行く。そこですったもんだあり。ケースワーカーがしなければならない事務仕事。入院し、余命短い人の家族に連絡を入れ、「関係ない」と断られる等々。さまざまな社会の理不尽さに触れ、保護係の同僚との関わりの中で、今まで築いてきたフツの価値観を問い直す主人公。文章の雰囲気としてはラノベ風で、本当は重い題材を、さっくり読める風に仕立てたお仕事小説。『フクシノヒト2』(*1)も出版されてます。

(*1) <文芸社文庫NEO/せ-1-2>

『フクシノヒト：こちら福祉課保護係 2』(文芸社、2018.1)



下手くそやけどなんとか生きてるねん。：薬物・アルコール依存症からのリハビリ

渡邊洋次郎著

現代書館

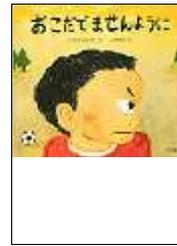
2019.11

社会福祉学部 臨床心理学科 三品桂子

<請求記号>

368.86/W 46

本書は、中学生の頃から、非行、シナーの乱用をはじめ、アルコール依存症になった渡邊さんの自伝です。とても読みやすく、数時間で読めます。渡邊さんは、依存症のために精神科病院へ48回も入退院を繰り返し、刑務所に3年服役経験があります。しかし、今は、介護福祉士の資格を取得し、依存症者が回復するための施設職員として働いておられます。思春期の非行少年の気持ち、依存症者の回復プロセスや支援者の役割に関して学ぶのに最適の書であり、精神保健福祉士、社会福祉士、公認心理師を目指す学生さんにお勧めするとともに、花園大学の皆さんに薬物依存に関する正しい知識を得るためにも、ぜひ読んでいただきたい自伝です。



おこだでませんように

くすのきしげのり作/石井聖岳絵

小学館

2008.7

社会福祉学部 臨床心理学科 橋本和明

<請求記号>

726.5/Ku 93

発達障害を有する主人公(本の中にはそのことはどこにも触れられていないが、注意欠如多動症(ADHD)、あるいは限局性学習症(LD)の特性があると思われる)がさまざまな不適応を生じる。しかし、内心は人からほめられたい、認められたいという気持ちが強く、それを七夕の願い事とする。ほめるということ、認めるということが子どもに限らず、人にどのようなパワーを与えるか教えられる物語である。



公認心理師のための基礎から学ぶ神経心理学：理論からアセスメント・介入の実践例まで

松田修、飯干紀代子、小海宏之編著

ミネルヴァ書房

2019.11

社会福祉学部 臨床心理学科 小海宏之

<請求記号>

493.73/Ma 74

臨床心理学科教授の小海も編者として関わった、公認心理師となるための学部必須科目である「神経・生理心理学」を基礎から応用まで学ぶのに適したテキストです。公認心理師を目指さない学生でも、脳とこころの関係に興味のある方は、是非、一読してみてください。



子どもたちの階級闘争：ブローケン・ブリテンの無料託児所から

ブレイディみかこ [著]

みすず書房

2017.4

社会福祉学部 児童福祉学科 笹谷絵里

<請求記号>

369.42/B 71

EU＝ヨーロッパ連合からイギリスが離脱することが決定した。この離脱は、イギリスにどのような未来をもたらすのであろうか？この本は、イギリスの低所得者層を対象とした保育所が時代の変化とともに移民の子ども達の受け入れ場所へと変化する様子を1人の日本人保育士の視点から描いている。階級とは、貧困とは、労働とは、多文化共生とは、そしてそこにある「差別や格差」は一体何かということが淡々と時には痛快に記述されている。ここで指摘される問題は、日本の保育所でも同様に見られる問題なのかもしれない。



薬理学を楽しく学ぶ

内田直樹、肥田典子執筆

サイオ出版

2019.4

社会福祉学部 児童福祉学科 千田真喜子

<請求記号>

491.5/U 14

健康であることは重要なことです。健康は自分自身で保持・増進しなければなりません。健康回復のために薬に頼ることが出てきますが、薬は健康をサポートするものです。本の中に2人＋白猫が登場し、難解な薬理学を「わかりやすい言葉」と「イメージしやすい表現」で楽しく説明しています。白猫の面白いツッコミも読んでいてつい笑ってしまいますよ。健康や薬に興味がある学生が読みやすい内容です。ぜひ一度、パラパラ読みでもいいので、本を開いていただきたいと思います。



レヴィ=ストロース講義：現代世界と人類学 (平凡社ライブラリー:543)

C. レヴィ=ストロース著/川田順造、渡辺公三訳

平凡社

2005.7

社会福祉学部 児童福祉学科 井上明美

<請求記号>

389.04/L 57

フランスの人類学者であるレヴィ=ストロースが、1986年に日本で行った講義の記録です。彼は多くの著書を残していますが、その中で、本講義は、生涯を通して伝えたかったことをわかりやすく、端的に述べていると思います。西欧至上主義の文化の問題を通して、多様性を受け入れ難い現代世界の現状や我々自身の生き方に対して多くの示唆を与えてくれると思います。柔軟な心を持つ学生時代に、ぜひ読んでほしいです。



本・子ども・絵本

中川李枝子著/山脇百合子絵

文藝春秋

2018.12

社会福祉学部 児童福祉学科 中妻雅彦

<請求記号>

文春文庫/な-80-1

『グリとグラ』の絵本を知っていますか。中川李枝子さんと山脇百合子さんが、『グリとグラ』の作者です。中川さんは、保育園の保育士でした。その経験から、様々な本を書いています。それにさし絵を描いたのが、妹の山脇さんです。『本・子ども・絵本』では、絵本30冊、児童書を58冊紹介しています。幼児教育を学ぼうとする学生、学校の教員を目指す学生、自分の子どもに楽しい暮らしをさせたいなと思っている学生にお勧めです。



行列のできる児童相談所：子ども虐待を人任せにしない社会と行動のために

井上景著

北大路書房

2019.11

社会福祉学部 児童福祉学科 和田一郎

<請求記号>

369.43/157

公務員福祉職の多くは児童相談所に配置されている。児童相談所の職員は国の政策により大幅に拡充されている。児童相談所の職員の職場環境や勤務実態などは、あまり知られていない状態である。本書は、児童相談所で起こる様々な出来事をわかりやすく記述したものであり、学生にとって児童相談所が身近に、そして就職する際の検討材料の一つとして有用になる書である。



赤ちゃんはことばをどう学ぶのか

針生悦子著

中央公論新社

2019.8

社会福祉学部 児童福祉学科 山口真希

<請求記号>

中公新書ラクレ/663

みなさんは母語を覚えるのに苦労しましたか。「いや、赤ちゃんの頃は吸収が早くて、すぐに喋れるようになった。」「英語で苦戦した。バイリンガル環境で暮らしたかった。」など感じているのでしょうか。この本を読めば、そうした考えが180度変わるかも知れません。人が新しい言語に触れるとき、頭のなかでどんなことが起こっているのか細かく描かれています。乳児期の発達に興味がある人、外国にルーツのある子どもの学習支援に関わっている人などにぜひ読んでいただきたい一冊です。



六祖壇經/臨濟録 (新国訳大蔵経:中国撰述部:1-7. 禅宗部)

齋藤智寛訳注/衣川賢次訳注

大蔵出版

2019.10

文学部 教養教育課程 衣川賢次

<請求記号>

180.91/Sh
64/2-1-7

かつて本学の聴講生だったある老人と友達になると、かれがわたしに『臨濟録』くらいはまともに読んでみたい」と言うので、それではと一緒に図書館へテキストを探しに行ったが、適当なものが見当たらず、結局当時わたしが書きかけていたこのシリーズの『臨濟録』訳注の原稿を使って、週に一度この人や同好のかたに講義をすることにし、三年かかってできあがったのが本書である。日本の『臨濟録』研究には室町以来の豊富な蓄積があり、前世紀には入矢義高、柳田聖山先生の訳注も出ていたが、いざ自分で理解しようとするや疑問百出で、どの一段を読んでみても納得がゆかない。さいわい現在ではCBETAなどの語彙検索システムを利用することができ、9世紀中国唐代の言葉の用例がいとも簡単に検出できて語義を確定できるうえに、どういう文脈に出るかまでわかる。これを唐代禅思想史の中に位置づけると、その言葉の思想史的背景からニュアンスに至るまで、明確に把握できるのである。『臨濟録』にはむろん仏教語彙が頻出するが、臨濟は当時の仏教教学を克服するために使っているのだから、通常の仏教辞典の類の説明では理解できないことも痛感した。相撲取りの世界では、胸を借りて稽古をつけてもらった師匠や先輩には、土俵で恩返しをするのだという。わたしもお世話になった両先生にこういうかたちでの恩返しができ、「ごつつあんです！」と申しあげたい心境である。